

コロナプランデミックとワクチン禍

君はリンゴの木を植えるか？

大阪市立大学医学部名誉教授
現代適塾塾長

井上正康

半世紀近く感染症や活性酸素を研究してきた私にとって、2020年にWHOが新型コロナのパンデミックを宣言した事から、「これはワクチンで解決可能」と確信した。久し振りにワクチン学の進歩を調べようとして国際論文などを調べた。そして最初に目に入ってきたのが「コロナウイルスのスパイクを産生する難分解性mRNAを脂質と細胞融合剤ポリエチレングリコール(PEG)でコーティングしたナノ粒子を“ワクチン”と詐称した製薬企業の説明書」であった。次に目に止まったのが「ポリオワクチンで有名なソーグ研究所が循環器系医学誌のCirculation Researchに発表した『スパイク蛋白はACE2受容体(血圧制御酵素)を介して血管を破壊して血栓症を誘起する毒物である』との重要論文であった。これらは『mRNAワクチンはワクチンではなく、半世紀間失敗し続けた“遺伝子医薬”であるが、“ワクチン”と詐称する事により安全有効性を審査されずに緊急承認され得る猛毒である事』を意味する。これは『人類史上最悪の薬害になる』と確信した私は、国民の生命と健康を守る為にYouTubeや講演会で正しい情報を発信し始めた。しかし、驚くべき事にYouTubeの視聴者数が約70万人を超えた頃に動画が強制削除”されてしまった。後に河野太郎ワクチン担当大臣の動画から、それが“日本政府から同社への削除依頼による事”を知った。私の発言は「医学の教科書や一流学術誌の論文内容を基にしているので、この“言論弾圧”は医学部でマトモな講義をしてはいけない事」を意味する。案の定、ワクチン接種が早く始まった欧米では直後から重篤な副作用が報告され始めて約二回で接種が中止された。しかし、情報鎖国状態の日本では、国民から“デマ太郎”と呼ばれ捨てられている河野ワクチン担当大臣、岸田前首相、ホリエモンなどの輩がテレビで“接

種ポーズ”を観せて国民を洗脳し、医学的に非常識な短期頻回接種を煽って“世界最悪の薬害国家”を誕生させた。“mRNAワクチン”と“副作用”のキーワードを用いて論文検索システムPubMedで調べると、2024年8月の時点で3000編以上の論文がヒットし、私が危惧した通りの大惨事が世界中で現実となっていた。“mRNAワクチン”は接種した左肩筋肉内に留まらず、血流を介して全身の組織や細胞に取り込まれて何年間も猛毒スパイクを産生し続けると同時に、産生細胞自身が免疫系で攻撃されて“自己免疫疾患”を発症する事も判明した。このスパイク蛋白は“血栓症誘発作用”に加え、“エストロゲン受容体活性やプリオン様構造(狂牛病発症因子)”も有している。更に、『ファイザー社の“mRNAワクチン”には製造過程で用いられたミドリ猿癌ウイルスのプラスミドDNA断片が~30%も混入している事実も明らかにされた。混入DNAは接種者の遺伝子を組み換えて不可逆的に遺伝子異常を誘起する。これは人類史上誰も経験した事の無い薬害であり、接種者は長期に渡り様々な病気に罹る事』を意味する。事実、世界中で接種者が『全身性血栓症、呼吸循環障害、皮膚炎、血液異常、脳神経障害、自己免疫疾患、月経異常、不妊症、精子異常、“ターボ癌”と呼ばれる進行速度の速い乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、膵臓癌、原発巣不明癌などや狂牛病まで誘発している事実』が論文報告されている。更に、免疫抑制でエイズ様病態(Vaccine-induced AIDS = “VAIDS”)に罹り、带状疱疹、結核、梅毒など、様々な病原体に罹患し易くなっている。

医学的に非常識な頻回接種をされた日本人は“世界最悪の被害国民”となった。不勉強な日本医師会員は論外であ

るが、医学部教授や研究者達は“世界のワクチン被害状況”を論文で知っているはずであるが、棄民政策でも国策に逆らうと研究費が貰えなくなり、出世の妨げにもなる事から、未だに“ワクチン後遺症”は存在しないとの犯罪的保身で口を閉ざし続けている。コロナ禍とワクチン禍の5年間、日本は『無医村国家』として漂流し続けてきた。これが、YouTuber藤江成光氏が緻密に調べ訴え続けている“謎の大量死”の主因である。

かつて、南米にはインカ帝国の原住民が、オーストラリア大陸にはアボリジニ人が、北米大陸にはアメリカンインディアンが、そしてハワイにはネイティブハワイアン達が住んでいた。それらの民族はスペイン、ポルトガル、英国、そして米国などの海賊により全て絶滅させられて地球から消滅した。現在、日本政府の棄民政策で“日本列島に異常な数の移民”が押し寄せており、その弊害がクルド人問題などで表在化しつつある。しかし、これは氷山の一角に過ぎず、圧倒的多数の中国移民が激増しつつある。中国の地図には「日本の名古屋以西は“東海省”、東部は“日本自治区”」と記載されている。『かつては日本列島に“日本人と呼ばれていた大和民族”が暮らしていた』と昔語りにも語られる日が近い事を気付かせたのが『新型コロナのプランデミックとワクチン禍』である。今、絶滅危惧国家日本は“史上最悪で最後の関ヶ原の戦い”の最中にある。今回、情報鎖国日本を憂う国民が中心となりドキュメンタリー映画『WHO?』を作成した。私はその試写会で『君は明日地球が減びるとしてもリンゴの木を植えるか?』とのマーチン・ルーサー・キングJr.の言葉を想い出していた。